



平成 2 5 年度 事業計画書

(平成 25 年 4 月 1 日～平成 26 年 3 月 31 日)



学校法人 九州国際大学

(平成 25 年 3 月 28 日 理事会)

— 目 次 —

I. 基本方針	1
II. 平成 24 年度予算概要	2
1. 収入の部.....	3
2. 支出の部.....	3
III. 事業計画・方針	
[学校法人]	
1. 人事関係.....	4
2. 施設拡充関係.....	4
3. 財務関係.....	6
4. 情報公開.....	6
[九州国際大学]	
1. 教育概要.....	6
2. 教育支援.....	9
3. 学生支援.....	9
4. 就職支援.....	10
5. 研修事業.....	10
6. 地域連携.....	11
7. 国際交流.....	12
[九州国際大学付属高等学校]	
1. 教育概要.....	13
2. クラス編成.....	14
3. 進路サポート体制.....	14
[九州国際大学付属中学校]	
1. 教育概要.....	15
2. 教育活動の特色.....	15
3. 教科目標.....	16

I. 基本方針

私立学校を取り巻く環境が大きく変化する中で、地域に立脚した私立学校としての大きな役割を果たしていくことを念頭に、現在の不透明な時代を生き抜く若者を育成することが重要な時代となってきたと認識しております。

本法人は、平成 20 年に策定した中期経営計画「平成 20 年～24 年（5 年）」にもとづく事業の点検を行うと同時に、未達項目・課題を再精査し、期限と目標を明確にして次期経営計画へと継承してまいります。今後の経営改善計画の実行にあたっては、財務的な裏づけによる経営資源の選択と集中を図り、組織の構成員である教職員が一体となって改革に取り組んでまいります。

特に、学校教育の根幹である優れた教職員の育成に努めることはもとより、本格的な私立学校経営の実践とその進捗管理の実施に取り組んでまいります。

（大学・大学院）

九州国際大学では、建学の精神に掲げる「塾的精神」によって互いに切磋琢磨して精神を鍛え、社会に貢献できる人材の育成に力を注ぎ、職業人としての基礎力を支援する取組みを実施し、大学卒業後に職業人・社会人として自立していけるよう、教育基盤をさらに強化しながら「就業力」・「学士力」を育ててまいります。特に、平成 25 年 4 月に地域連携センターを開設すると同時に、黒崎駅前という交通の要衝にサテライト・キャンパスを設置いたします。これは、大学の多様な資源を活用して地域との連携をより堅牢なものへと発展させることをめざしたものであり、地域研究・地域連携・人づくりに関する事業を新たに展開してまいります。このことにより、地域に根ざす私立大学としての基盤をよりいっそう強いものへと発展させるよう取り組んでまいります。

さらに、都市型大学として理想的なキャンパスを目指し、平野キャンパス（大学）に人工芝グラウンドを整備し、正課授業、サークル活動を通じて活力ある「K I U」をアピールしていきます。

これらを踏まえ、本学では、平成 26 年度の第 2 期認証評価に向け、志願者や入学者の増加を目的に、現在の学生の質を客観的に分析した授業方法、カリキュラム体系などの改革に着手すると同時に、高校生に分かりやすい募集戦略とマッチした教育改革を実施してまいります。

（中学校・高等学校）

附属中学校・附属高等学校は、2010 年度に高等学校の「共学化」という大きな改革を行ったことで県下トップの志願者を獲得するなど北九州市域の注目を集めています。今後も、教職員・生徒の力を結集し、「独自性のある」「活力のある」学校づくりに一層取り組んでまいります。

高等学校を取り巻く環境においても、少子化に伴う 15 歳人口の減少により、県内の私立高校への入学者数が漸減しているにもかかわらず、学則で定める入学定員と実際の入学者数との間に乖離を生じていることが喫緊の課題とされてきました。このことを受けて、本校の募集力を勘案した上で、平成 24 年度より附属高等学校の入学定員を 720 名から 640 名に改正しました。

今後は、学校評価への取組みを開始し、地域ナンバーワンの私立学校を目指した取組みを実施してまいります。

（学校法人）

本法人の財務状況は、支出超過の状況が続いておりますが、平成 24 年度決算においては運転資金の留保（前年対比）が可能となる見込みであり、財務状況の回復傾向がみられます。

平成 25 年度以降は、費用対効果を考慮した選択と集中により予算編成を行い、高い教育サービスの提供に向けて教育・就業支援事業の充実に努めてまいります。施設設備維持管理の対応については、各キャンパスの課題・問題点を認識し、法令対応となる耐震診断や老朽施設の整備等について、資金計画に基づく中期事業計画を作成し事業を執行していきます。

そのためにも、学校法人の収入の多角化や中学・高校・大学を設置しているというスケールメリットを活かしたコストダウンや戦略事業による定型業務の集約型アウトソーシングなどについても研究を開始いたします。あわせて、大学多目的運動場の整備など、先行投資を行った施設設備の充実に対応した募金活動を本格的に始動してまいります。

II. 平成 25 年度予算概要

消費収支計算書の上では依然として支出超過が続いています。学生確保による収入増に努めるとともに、支出の部において高い比率を示している人件費、奨学費等については、総額（総数）管理による制度運用を検討するなど、更なる改革が必要です。

平成 25 年度予算編成方針に基づき編成作業を実施した結果、平野キャンパスのグラウンド整備事業・枝光キャンパス施設整備事業などの大規模事業計画については、通常予算とは別枠での資金計画により事業を実施するため、運転資金への影響はなく支払資金の留保が可能となる見込みです。引き続き、資金計画に基づいて事業執行しながら、教育投資を増額できるよう努めてまいります。

－ 平成 25 年度 学校法人九州国際大学予算 －

消費収支計算書

(単位：千円)

消費収入の部		消費支出の部	
学生生徒等納付金	2,476,138	人件費	2,323,609
(授業料)	1,749,937	(教員人件費)	1,503,383
(保護者負担軽減額)	△ 30,769	(職員人件費)	602,223
(入学金)	94,110	(役員報酬)	35,084
(実験実習料)	2,180	(退職金)	27,661
(施設設備資金)	82,920	(退職給与引当金繰入額)	155,258
(教育充実費)	577,760	教育研究経費	1,367,361
手数料	74,334	(奨学費)	381,994
補助金	923,185	(減価償却額)	363,708
(国庫補助金)	260,158	(その他の経費)	621,659
(地方公共団体補助金)	662,567	管理経費	406,699
(その他の補助金)	460	(減価償却額)	75,432
資産運用収入	58,050	(その他の経費)	331,267
事業収入	101,045	借入金等利息	11,254
(補助活動収入)	96,911		
(受託事業収入)	4,134		
雑収入	196,644		
帰属収入合計	3,829,396	[予備費]	30,000
基本金組入額合計	△ 132,974	消費支出の部合計	4,138,923
消費収入の部合計	3,696,422	当年度消費支出超過額	442,501

※ () 内は、主な科目を内数として表示

1. 収入の部

(1) 学生生徒納付金

入学定員確保を重要課題として募集活動に取り組みます。加えて、退学防止のための教育支援に取り組み収入減少の抑制に努めます。

(2) 補助金収入

大学部門における私立大学等経常費補助金については、「未来経営戦略推進経費（H20～H24）」が終了したことが大きな要因となり、特別補助の減額を見込んでいます。高校・中学部門における福岡県私立学校経常費補助金は、在学生数の増加を見込んでいるため学生割配分額の微増を見込んでおります。

平成 25 度の補助金収入については、各部門の状況及び過去の受給傾向等を考慮して収入計上しています。

(3) 資産運用収入

平成 24 年度は、退職給与引当特定資産の概ねを定期預金により運用してきました。減価償却引当特定資産においても安全性を考慮して、普通預金・定期預金・地方債等により運用しています。

これら、特定目的資産の運用については、平成 25 年度も引き続き銀行預金中心の運用を行い、安全性・流動性を重視します。

また、施設設備利用料について、学園の PR を兼ねて広く周知しながら利用促進し、増収に努めています。

(4) 事業収入

受託研究事業は、自治体・企業・研究機関との連携により、国策・地域政策と合致した実践的研究に参画することで学園の存在意義・評価を高めていきます。また、外部資金（学外研究）を獲得し、これらを活用した研究スタイルを推進しながら研究費調達が多様化を促進します。

寮運営事業について、大学学生寮（紅梅寮）は、留学生やサークル学生に限らず、多様な学生を受入れることで稼働率を上げていきます。高等学校生徒寮（橘寮・華橘寮）は、サークル生を中心としてニーズが高まり、定員に近い入寮生を確保しています。大幅な支出超過とならないよう経費削減に努め、寮生の教育面・生活面をサポートしていきます。

2. 支出の部

(1) 人件費

「現行賞与支給率の維持」「非常勤手当講師経費などの削減」に努め、数値目標内で予算措置を図りました。引き続き、「早期退職制度実施」「諸手当見直し」「賞与支給水準見直し」などの検討を行い、人件費の抑制に努めていきます。

(2) 経費

平成 24 年度当初予算と比較して経常経費の予算は微増加しました。大学の学生生活活動支援や募集施策で投じた奨学費が増加傾向にあり、前年度当初予算比で教育研究経費は増加しています。一方、事務組織のワンフロア化や業務の合理化を図り、管理経費の削減を見込んでいます。大学の夜間主コース（FB）廃止や不採算部門を廃止したことにより、運営費や施設維持管理費（光熱水費）をはじめとする削

減効果を期待しています。これら支出構造については、引き続き効果検証していきます。

(3) 施設設備等

平成 24 年度に、教育環境の拡充を目的として平野キャンパス（大学）のグラウンド整備計画を取り纏めました（右図参照）。

また、枝光キャンパス（中学・高校）においては、「建築物の耐震改修の促進に関する法律」に基づき耐震診断を実施し、診断結果に基づく整備計画を策定しました。平成 25 年度は、通常経費に加え、これら教育環境整備を中心とした大規模事業を実施するための特別予算を編成しました。これら計画の実行については、事業の裏づけとなる資金計画に基づき、厳正に事業執行にあたります。



【図】：平野キャンパスグラウンド（イメージ）

Ⅲ. 事業計画・方針

[学校法人]

1. 人事関係

(1) 人事考課制度

教職員の資質を向上させるとともに教育機関として最も重要な教育力の向上及び組織の活性化を図る目的で「学校法人九州国際大学行動規範」に基づきトータル人事制度を運用しています。これまでの課題を改善しながら人事考課制度実施要綱（改定版）に基づき運用し、個人調書及び活動報告書の提出による基礎データの収集及び目標管理シート・業績報告書の提出により達成度評価を実施しています。

(2) 早期退職優遇制度

本学園が雇用する職員の生活設計の多様化に対応するため、「学校法人九州国際大学早期退職制度に関する規程」に基づき早期退職制度を実施します。一定の条件を満たす高年齢職員が早期退職制度の優遇措置を受ける場合、退職手当支給時に基準に応じて退職金支給割合の特別加算適用を受けることができます。

2. 施設拡充関係

(1) 機器・備品整備関係

部門	設置場所	件名
平野キャンパス (大学)	1号館3階	ブラスバンド部楽器一式
	1号館2階	ネットワークプリンター
	1号館2階	A1インクジェットプリンター一式

枝光キャンパス (高等学校)	高校保健室	聴力計
	高校保健室	体重計
	高校棟	クロスパネル一式
	第一グラウンド	ハンドボールゴール
	第一グラウンド	サッカーゴールネット
	高校棟	コートハンガー
	高校棟	オープンシューズボックス
	高校棟	丸椅子
	高校棟	壁面看板
	第一体育館	エアコン
枝光キャンパス (中学校)	A棟	リソグラフ印刷機
	A棟	丸椅子
	第3体育館	バレー支柱

(2) 施設設備・修繕工事関係

部門	設置場所	件名
平野キャンパス (大学)	平野記念館横	多目的グラウンド造成工事
	3号館	エレベーター安全装置取付け
	3号館	放送設備移設
	K I Uホール	消火栓配管修理工事
	平野記念館	道場廊下研磨塗装工事
	2号館	中央監視盤修理工事
枝光キャンパス (高等学校)	高校棟	エレベーター基盤等取替工事
	枝光校舎全建物	消火器更新工事
	第二体育館	照明取替工事
	C棟	天井ボード取替工事
	第5校舎	部室改修工事
	K I Uホール(合宿棟)	部室改修工事
	誠心館・生徒会館	解体工事
	旧女子部校舎	解体工事
第三体育館	バスケットボールライン書き換え	
尾倉校地	旧文化交流センター	ルーフバルコニー防水工事
若松グラウンド	若松グラウンド野球場	グラウンド周辺側溝修理工事

(3) 情報・通信機器整備

● ネットワーク機器および基幹ネットワーク回線更新

学術情報ネットワークなど外部接続回線の高速化が完了したため、今後は基幹ネットワーク機器（コンピュータ機器、ネットワーク機器と各種アプリケーション）の高速化に対応していきます。

そのためには、情報基盤を教育・研究を中心とした業務を支えるシステムとして捉えるばかりではな

く、経営基盤を担う重要な役割を担う戦略ツールとして活用することを計画いたします。

また、現代の情報端末の多様化、高速化に対応したキャンパス内無線LANアクセスポイントの拠点増設に着手いたします。

● **プリンター機器更新**

印刷機器の最適配置計画（印刷能力・使用頻度にもとづく配置計画）に着手するとともに、出力機器のメーカー・機種統一化を図ることによるランニングコストの削減に対応してまいります。あわせて、職員証（ICカード）を活用した印刷物による情報漏えい防止策と印刷物の監視・管理の対応を講じてまいります。

● **グループウェアの更新検討**

現行グループウェアからWeb系のグループウェアの切替えについて、無償版グループウェアのテスト環境を設定して試行的に運用させながら可能性を検討していきます。

3. 財務関係

適正な予算執行を促すため予算説明会等を開催し、事業着手前の予算措置や規程を遵守した経理手続きに関して啓蒙していきます。一般経費の予算編成に関しては、事業計画の効果予測を検証し、根拠に基づく予算積算を行います。建物・構築物・修繕工事・備品等の固定資産取得に関しては、優先度を勘案しつつ、中期的な事業計画を立案して予算化していきます。資産運用については、引き続き定期預金等の安全性の高い運用に努めていきます。また、日本私立学校振興・共済事業団（以下「事業団」という）からの借入金は順調に返済しており、平成25年度の返済額も約定日までに返済します。

これらを総じて、学園の財政安定化に必要な検討課題に対して、様々な視点から提言を行ってまいります。

4. 情報公開

私立学校法第47条に基づいて条項に則した事業報告書を作成し、情報公開を促進します。また、学校教育法施行規則等の一部を改正する省令に基づき、教育研究活動等の状況をホームページで積極的に公表していきます。さらに、「学園情報誌：キュウトビ」や「大学要覧」を発刊し、本学園の取組みや財務情報、学生活動を紹介するなど広く情報提供していきます。

[九州国際大学]

1. 教育概要

(1) 法学部 / 法律学科

法学部では、警察官や行政職員として地域の発展や安全・安心な社会づくりに貢献したいという学生を受け入れる「リスクマネジメントコース」「資格取得・不動産管理コース」を設置しています。これらのコースは、法学部の学生の多くがめざす公務員や資格取得を、より確実なものにしようと生まれたものです。

本学部には、少人数のゼミや課外活動、地域と一緒に課題を解決していく連携活動など、ユニークな教育プログラムがあります。こうした学内外でのさまざまな体験を通して得る知識やコミュニケーション力を育み、業種を限らず、社会へ活躍できる人材として育てていきます。

● **リスクマネジメントコース** —警察官・公務員をめざす—

警察官、消防士、行政職員に必要な危機管理の考え方と手法を学びます。行政・企業等におけるリスクが増大するなか、将来性の高い分野です。

● **資格取得コース** —就職に有利な資格を取る—

宅建や司法書士などの国家資格取得や、法律のスペシャリストをめざす人のロースクール進学をバックアップします。

(2) **経済学部 / 経済学科・経営学科**

多様化する現代社会で「問題発見能力」と「問題解決能力」を発揮できる人材の育成、それが経済学部の教育目標です。そのため国内外のさまざまな経済活動を理解できることや、今の国際化や情報化した社会に沿った幅広い教養と専門的知識、さらに高いコミュニケーション能力を養えるようカリキュラムを工夫しています。

経済学科は将来、企業や地域社会で活躍したい人のための学科です。経済の理論と知識を修得し、世界と地域の経済を見つめる確かな目と、深い教養、豊かな人間性を身につけた人材を育成します。また、経営管理やマーケティングを学んで、実践的なマネジメント能力や情報・会計のビジネススキルを修得したい人のために、経営学科を設けています。

● **地域づくりコース** —地元企業・地方公務員を目指す—

より良い社会づくりに貢献できる人材を育成する。それを地元の特化したのが「地域づくりコース」です。知識の習得だけでなく、実践力を育てることを重視した体験型学習。農村の現状を知るための田植え・稲刈り体験や、地元企業へのインターンシップ、さらには地域再生の歴史や事例、手法を学び、実際にイベントや店舗運営などを通して、地域社会の問題を解決できる力を養います。

● **ビジネスアカウンティングコース** —税理士・会計士を目指す—

専門的な会計の知識を持ったビジネスパーソンを育てるコースです。15名限定の特別クラスで、4年間会計学担当の教員が徹底指導します。まず目指すのは、日商簿記検定2級の全員合格。さらに1級合格者、税理士や公認会計士をめざしての大学院進学というように、エクステンションセンターと連携しながら知識を蓄積。原価計算や財務管理など専門科目によって応用力を養いながら、4年生では卒業論文に取り組みます。こうした一連の学びから、分析結果を明解な文章で表現できる、大卒ならではのプロを育てていきます。

● **ビジネスリーダーコース** —実務体験で生きた経営を学ぶ—

企業経営に必要な知識とスキルを身につけることを目的としているのが「ビジネスリーダーコース」です。家業を継ぐ人や将来、起業を考えている人はもちろん、各部署のリーダーや経営幹部といった企業の中核を担う人材を育成するための、本格的なプログラムを用意しています。地元企業でのインターンシップや、北九州の企業経営者によるリレー講義など、体験しながら生きた経営学を学びます。さらに3年生では、ビジネスゲームやケーススタディの分析・ディスカッションで、発想力や問題解決力を培っていきます。

(3) 国際関係学部 / 国際関係学科

近年では、国境を越えた経済・社会のつながりや日本と諸外国との共生が重要な時代となっています。グローバル化が進む世界の中では、他国の文化や社会を理解し、真の国際感覚を養うことが大切です。国際関係学部はそんな時代と社会の要請に応え、国際教養とグローバルなコミュニケーション能力をそなえ、真に世界で活躍できる人材の育成をめざします。語学力を磨くのはもちろん、相手の国の文化や社会・経済の仕組みを理解するために、豊富な外国人教員の授業や、多彩な海外実習制度など、これまでの学際的教育と外国教育をさらに深めていきます。

● 英語コース — 使える英語を身につけるための学習支援 —

国際関係学部の柱のひとつである国際言語運用能力、その中でも「英語」は「世界共通言語」として最も重要な言語です。英語コースは徹底した英語教育を行います。

到達度別クラス編成で、自分の英語力に適したクラスからスタートし、レベルに応じて段階的に学習していきます。

● ハングルコース — 韓国語と「韓国」を学ぶ —

ヒトやモノ、情報の流れが広がり続ける日韓両国ではハングル語を駆使できる人材が求められています。ハングルコースは、楽しさと実践的な講義で、需要が高まる韓国語のスペシャリストを育成します。

● 観光ビジネスコース — 実践的アプローチの学習 —

旅行、ホテル、鉄道などの観光ビジネスを中心とするホスピタリティ産業への就職をめざします。ホスピタリティ産業とは、旅行やホテルのみならず、旅客を扱う鉄道やバス、航空、テーマ・パークなども含まれます。このような分野において求められる能力を培うことができるように、実践的・実務的なアプローチを重視するとともに、関連する資格・検定対策に必要な知識を提供できるようにカリキュラムや支援制度を準備しています。

● 国際協力コース — 協働する技術を学ぶ —

NGOやNPO、青年海外協力隊や国際関連機関などで将来的に活躍できる人材を育成します。

国際関係学部が力を入れるホスピタリティに根ざしたコミュニケーション能力は、まさに国際協力の取り組みに必要とされるものです。語学はもちろん、グループワークなどの参加・体験型学習を通じて対話を積み重ね、国内外での実践的な「実習」を数多く経験していき、教員と学生が二人三脚で取り組んでいきます。

(4) 大学院 / 法学研究科・企業政策研究科

大学院修士課程は、高度専門職業人の養成を目的としての知識と専門性を高めていきます。

法学研究科では、企業や行政の現場で発生する、さまざまな問題を解決するための法知識の習得を目指します。

企業政策研究科では、経営実務に関する高度な知識、企業を取り巻く外部環境にかかわる専門知識をもつ人材の育成を目指します。

2. 教育支援

(1) 入学前教育プログラム

教育の質的保証を確保するメニューの一つとして、入学予定者全員に対して「基礎学力」を補う目的で入学前教育プログラムを実施します。業者が作成している「一般常識・基礎学力テスト」、「問題集」を活用して大学側と業者が連携しながら学習の支援をしていきます。本プログラムを学習することで入学までの期間に学習のモチベーションを高め、また、3年次に実施する「就職試験対策」にも繋げていくことで、アセスメントテストとしての役割を果たしていきます。

(2) 初年次教育

入学者の目的意識の低下、学力や職業意識の低下により退学者が増加しています。学生の主体的な学びを促進し、学士力を備えた学生を社会に送り出すために学生一人ひとりを一から育てる教育に取り組んでいます。これら取組みの一環として新入生研修（FM：フレッシュャーズ・ミーティング）、体験型学習（フィールドワーク）、学生に応じた目的達成支援（P A S S：Project of Achievement Support for Students）を実施していきます。

(3) 基礎学力向上プログラム

本プログラムは1年次より開講しており、公務員試験・教員採用試験・民間の就職筆記試験に必要な知識・学力の基礎（国語・数学）を養い、2年次の秋学期から始まるエクステンションセンターにおいて公務員受験対策講座の受講を促し、公務員合格者の底上げを目指していきます。受講前に実施される学力診断テストの結果に基づき学力別クラスを編成し、レベルに応じた講義を学期毎に段階を経て実施していきます。

(4) 実習科目の推進

海外での体験的な学習機会を設けるために海外提携校での語学実習、外国事情研修、ボランティア活動等の海外実習科目を開講します。また、国内でのボランティア活動や企業実習等を行う国内実習科目を開講します。

(5) スタディスペースを活用した教育支援

学生が講義の空き時間に訪れ、「オフィスアワー」で待機している教員から講義でわからないところを納得のいくまで教える学習支援に取り組んでいます。学生の動向や相談内容が多様化するなかで、従来の研究室での対応から脱却し、学生が気軽に立寄り、多種多様な相談が可能な空間として、学生生活をサポートするインフォメーション的な役割をSA（スチューデントアシスタント）、教員、職員が協同で支えています。

3. 学生支援

(1) 保護者連絡会の実施

昨年度に引き続き、学生の出席状況や学生生活の実態を把握し、成績不振等を解消するために相談会を実施します。大学側と学生・保護者を交えて質問・相談に応じます。

(2) フリースペースの活用

学生が講義やサークル活動の合間にくつろげる場所として、平成 24 年 4 月に「フリースペース」を設置しました。友人とのコミュニケーションを図る場所、待ち合わせの場所として、有効活用できるよう、引き続き利用促進していきます。

(3) 屋外ステージの設置

保護者後援会の支援により、平成 24 年 4 月に屋外ステージを設置しました。体育系サークルや文化系サークルの活動発表の場、大学祭のメインステージなど、学生の課外活動を中心に積極的に活用できるよう支援していきます。

(4) 学生ステーションの設置

学生活動を支援する目的として「学生ステーション」を設置しました。なんでも相談室（4 月）、学生ミーティング、大学祭模擬店説明会、ゼミ発表等、学生の利用要望に応じて、多目的に利用できます。

4. 就職支援

(1) キャリア形成支援プログラム「KIU-SPICE」

KIU-SPICE (Kyushu International University Support Program In Career Education の略称) は、本学の教育理念である「理論と実践両面に明るい人材養成」を具体化する形で、入学年次からの 4 年間を通じ、社会人基礎力、人間力、就職力を身に付けるための正課授業による「キャリア教育」と、学生に自己理解・自己発見の機会と知的刺激を授けるための講義、ワークショップ、模擬試験（基礎学力）、インターンシップなどにより構成される「キャリアサポート」を統合して展開する、体系化されたキャリア形成支援プログラムです。本取組は、学生の多様化が進む中での大学教育の質的保証を図り、学生の主体的人格形成による学士力の確保を目的に、文部科学省が財政支援を行う「大学教育・学生支援推進事業」の学生支援推進プログラムに採択された事業でもあって、更なる質的拡充を図りつつ持続的、発展的な取組みを行うものです。

(2) エクステンションセンターによるキャリア支援

エクステンションセンターでは、資格取得講座、就職支援・スキルアップ講座、教養講座、その他提携講座など、学生の学習ニーズにあった各種講座を企画し開講しています。平成 25 年度も年間で 24 講座 61 コースを予定しており、講座の講師には、専門学校講師や実務担当者を中心としたエキスパートを起用し、適切な受験技術や指導法により高い合格率を目指しています。受講メリットは、専門学校より安い料金の設定のうえ講義時間数も多く、大学に通いつつ資格を取得できるばかりか、それが同時に就職活動でのアピールにもなります。本学学生にとっては、社会人と一緒に学ぶことで刺激を受け、必然的に社会マナーを肌で感じ修得する機会ともなり得ると同時に、やる気を起こさせる動機付けの効果も狙えます。

5. 研修事業

学校法人九州国際大学職員人事規則に基づき、教職員の能力開発及び資質の向上を目的として恒常的に研修等を実施しています。FD（ファカルティディベロップメント）・SD（スタッフディベロップメント）活動の目的は、教職員の職能開発であることはもとより、教育の質的向上にあります。これまでと同様に「学士課程教育の質的保証」「初年次教育」等を中心として、各学部・研究科において実施

された研修内容を継続的に展開していきます。

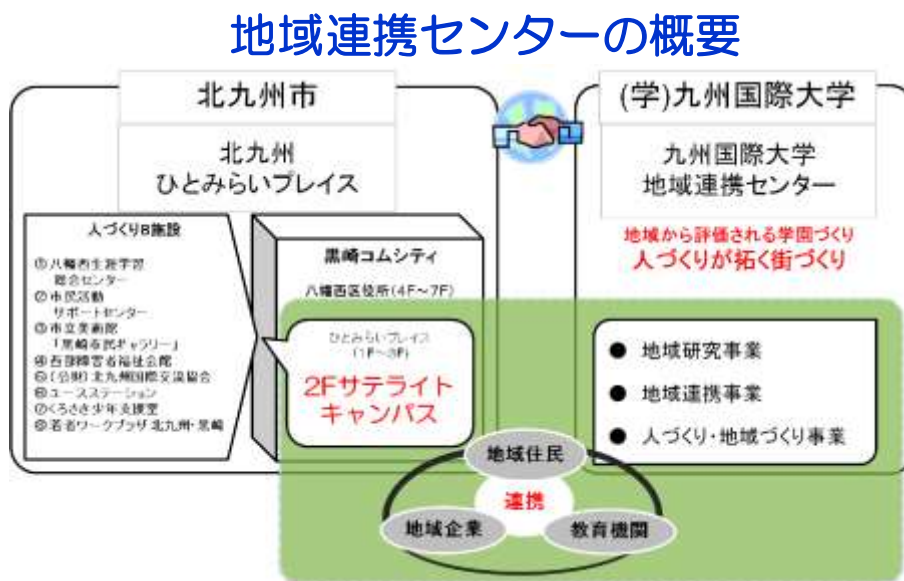
また、Semester毎に実施している授業アンケートの分析結果などを踏まえて、FD委員会・教務委員会において対策を講じ授業運営の改善を図っていきます。

さらに、他大学の先進事例について情報を得る、研修会を実施するなどしてFD・SD活動を推進していきます。

6. 地域連携

(1) サテライト・キャンパス 地域連携センターの設置

「人づくり」をコンセプトとした北九州市のコミュニティ再生計画に賛同し、平成25年4月に黒崎駅前コミュニティにサテライト・キャンパスを設置します。同時に、大学との地域連携を目的とした組織として「地域連携センター」を設置し、行政部局との連携を図りながら、生涯学習の提供や地域研究に邁進いたします。さらに、これら活動を通じて、新たな人材育成メニューを創出することで、地域と連携した「人づくり」「街づくり」に貢献していきます。



(2) 大学コンソーシアム関門事業

関門地域の高等教育機関が相互に連携・協力し、関門地域の高等教育の充実及び発展を図るとともに、地域社会へ貢献する目的で参加大学によりオリジナルの講義を提供しています。本学においても、コンソーシアム事業を推進し、講義提供等を実施していきます。

(3) 地域安全パトロール

本学周辺並びに八幡東区周辺にかかる暴走行為や少年非行の抑止、ならびに各種災害の防止活動をはじめとした地域の安全・清掃活動等に貢献し、安全で安心できる「まちづくり」に寄与する目的で地域安全パトロール隊を結成しています。本学職員・学生が警察・地域防犯ボランティアと連携して定期的に防犯パトロールを実施していきます。

(4) 前田祇園山笠行事への参画

本学が位置する地元地域では、毎年、前田祇園山笠の山笠巡行、競演会をはじめとする祭事がとりおこなわれています。前田祇園山笠の山笠行事は、600年以上の歴史を有し、遠賀川流域圏で古くから展開されてきたと考えられ、北九州市無形民俗文化財に指定されています。本学は、地域に開かれた大学として、教職員および学生が主体となって山笠を保存し、これら行事への参画を通じて地元地域との

交流を深めながら地域貢献していきます。

(5) 皿倉山にぎわいづくり推進協議会への参画

今年度より、産学官民で組織される皿倉山にぎわいづくり推進協議会に参画し、地域の諸問題解決のため、大学として学生を中心に地域との連携を強化する活動を実施いたします。地元住民参加による検討会を通して、学生の企画力・運営力を養成できる実践の機会として捉え、シンポジウムの実施や検討結果の公表まで取り組んでまいります。

7. 国際交流

国際的視野を持った人材を養成するため、アジア地域を中心とした諸大学との国際交流を推進しています。海外の諸大学（中国・韓国・台湾・インドネシア）と交流協定を締結し、専攻分野における研究交流や交換留学などを展開しています。

(主な国際交流事業)

- **交換留学制度** : 協定校への留学（半年または1年間）
- **認定留学制度** : アメリカ、中国、韓国、インドネシアの大学に留学（半年または1年間）
- **海外社会実習** : 主にアジアの国を訪問先とするスタディツアー
- **海外語学実習** : 長期休暇を利用した語学留学（アメリカ・オーストラリア）
- **ホスピタリティ交換留学・実習留学** : 国際関係学部「観光ビジネスコース」の留学制度

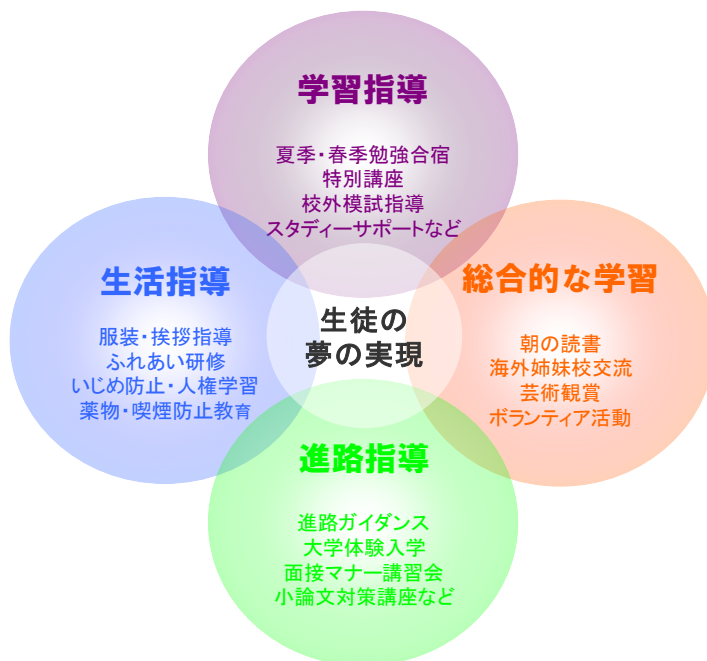
[九州国際大学付属高等学校]

1. 教育概要

男女共学として生まれ変わった付属高等学校。今まで受け継がれてきた伝統と、北九州屈指の進学・スポーツ実績をもつ学校としての誇りを胸に、より質の高い教育を実現します。新生・九国付が掲げるのは、「知・徳・体」のバランスがとれた人間教育です。高校で過ごす3年間は、将来の基盤となる大事な時期です。学力向上はもちろん、心身ともに健全で社会に貢献できる人間性豊かな人材の育成に努めてまいります。

九国ライフデザインプログラム

～4つの側面から生徒の夢をサポート～



目指す学校像

- 生徒の夢と目標を実現できる進学校
- 文武両道を実現する学校
- 他を思いやる豊かな心を育む学校
- 時代をリードする国際性を育てる学校

1. 社会的マナー教育

豊かな人間性を養うには、礼儀作法が不可欠です。明るく元気な挨拶、高校生らしい清潔感のある身だしなみなど、日常の学校生活を通して礼儀作法やマナーをきめ細かく指導し、社会の一員としての自覚を促します。

2. 全クラス進学志向

本校では全てのクラスにおいて大学進学を目標に授業を展開しております。生徒一人ひとりの学力や個性を熟知した教師陣が放課後や長期休暇中も全力でサポート。進学意欲をかき立てる土壌が整っています。

3. 現役合格へのこだわり

早期から明確な進路目標を掲げ、綿密な学習プログラムを実践。国立大学をはじめ、志望大学に進んだ卒業生の多くが、授業や各種講座など本校の指導のみで着実に学力を伸ばし、過去3年間の現役合格率93%の安定した実績をあげています。



4. 「やらされる」から「自らやる」へ

向学心を養うには、強制的に「やらされる」のではなく、「自らやる」意欲を引き出すことが大切です。生徒とのコミュニケーションを大切に、親切的指導でやる気を高め、自発的に学べる環境づくりに努めています。

5. 幅広い人間教育

本校の伝統でもある豊かな情操教育と道徳教育を推進。いじめや暴力がなく、安心して楽しく学べる環境を守ります。また、ボランティア活動や国際交流など、地域社会との関わりを通して幅広い視野を養います。

6. 個性に合わせた進路指導

生徒一人ひとりの個性や適性を大切に、将来まで見据えた手厚い進路指導を実施。豊富なデータをもとに学級担任・教科担当・進路指導教員が連携してサポート。それぞれの希望に応じて最適な指導を実施していきます。

2. クラス編成

クラス	概要
難関クラス	少数精鋭でハイレベルな授業を実践する難関クラス。東京大学、京都大学、九州大学や、医歯薬系の難関大学への現役合格を目指し、高度かつ綿密な指導を行います。社会常識やマナーも身につけ、確かな学力と豊かな人間性を兼ね備えた人材を育成します。クラブ活動への参加も可能です。
S特進・特進クラス	国公立大学への進学を目標に、現役合格を目指すS特進・特進クラス。2年次からは徹底したコース別教育を取り入れ、生徒一人ひとりの能力を高める指導を実践します。24年連続、国公立大学に100名以上の合格実績をあげている原動力になっています。
準特進・進学クラス	国公立大学や有名私立大学の受験を視野に入れた充実のカリキュラムで、やる気をしっかりサポートする準特進クラス。また、適性に応じて大学進学を中心とした幅広い進路へと導く進学クラス。ともに、クラブ・ボランティア活動も積極的に推進し、個性と才能を伸ばして、さらなる成長を促します。
国際コミュニケーションクラス	生きた語学力を見につけ、多彩な国際交流でグローバルな視野を育む国際コミュニケーションクラス。オーストラリア・中国・韓国の名門姉妹校での海外研修や各国での留学制度も充実。ネイティブの教員も多く、英検対策にも積極的に取り組みながら、大学進学を目指します。
トップアスリートクラス	推薦試験で入学する生徒を対象に2クラスで構成。全国的なスポーツ実績を誇るクラブ活動の充実を図ると共に、他のクラスと同様に大学進学を目指した授業を行います。スポーツと勉学の両方で頑張りたいと考える生徒たちを精一杯バックアップします。

3. 進路サポート体制

(1) 自己マネジメントプログラム「夢橋（ゆめたちばな）」

自己マネジメントプログラム「夢橋」は、先輩たちの足跡に学び、一人ひとりの夢を本気で実現させる「勝利の方程式」のひとつ。1週間単位の生活プランノートで、各々の目標にあわせて「未来の計画」を書き込みます。毎週の総合的な学習の一環として、時間割に組み込まれており、クラス担任の指導のもと、前週の反省点と次週の計画を立てさせ、自主性を育てる細かな指導を実践します。

(2) 学習・進学サポート

いち早く「目標」を明確にして学ぶ意欲をかき立てるフォロー体制を確立し、土曜日や放課後に加え長期休暇中の特別講座を実施して進学（合格）に向けての準備を万全にしています。また、各種ガイダンスを実施して勉強方法や受験までの心構え、受験動向などを早期から指導します。

(3) 入試対策

「小論文・面接対策」「資格取得指導」「予備校講座」「大学特別講義」等を実施することで多様化する大学入試に対応できる体制を整えています。

(4) データに基づく進路指導

生徒の成績を個別にコンピュータで管理・分析。各々のデータに基づき、数値やグラフと照らしあわせながら目標に向けて具体的な進路指導を展開します。各種データや情報は生徒や保護者に提供。志望大学への指針を明確にして現役合格へと導きます。

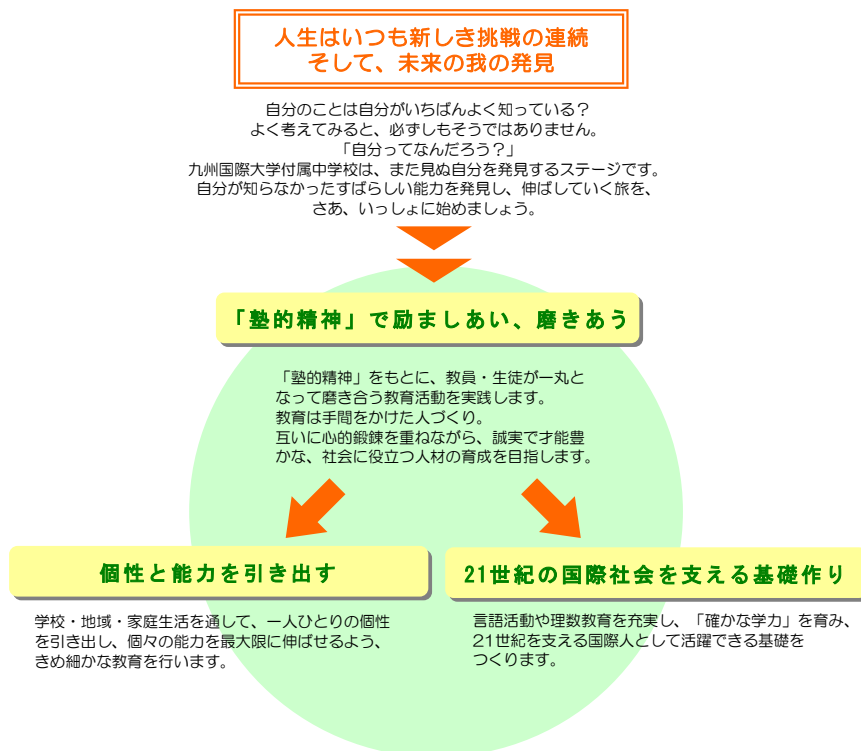
(5) 放課後・休暇中の学習フォロー

生徒一人ひとりの学習計画を踏まえて、昼休みや放課後、夏休み、冬休みなどの学習を支援します。生徒の習熟度や個性を熟知した教員が手厚く指導し、合格へと導きます。

[九州国際大学付属中学校]

1. 教育概要

中学校では、その教育目標に「知・徳・体の調和のとれた人間教育」「個性や能力に基づいた希望進路の実現」を掲げています。充実した中学校生活を過ごし、確かな知力と徳力、体力を身につけ、より高い進路の実現を目指します。



2. 教育活動の特色

柔らかい心と好奇心に満ちた中学時代に、本校独自の体験型学習活動を通して、高い水準の生きる力を身につけ、友情を育み、多くの感動を味わうことができます。

(1) 「知」「情」「意」を刺激する体験学習

充実した宿泊研修	心身の鍛錬・歴史文化 に触れる北九ウォーク	みる・きく・しらべる
<ul style="list-style-type: none"> ■ 自然体験教室（1年） ■ 古都探訪教室（2年） ■ 海外体験教室（3年） 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 帆柱連山登山（1年） ■ 足立・小文字登山（2年） ■ 長崎街道ウォーク（3年） 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 救急救命講習（1年） ■ 環境体験教室（1・2年） ■ 地域に学ぶ体験教室（2年） ■ 学術体験教室（3年）

(2) ことばを大切にし、表現する力を身につける学習

ことばを大切にする	英語力を身につける
<ul style="list-style-type: none"> ■ 朝の読書（プラチナ10） ■ ころ color 運動 ■ 学校誌『21』－勇気の風－ ■ 体験・学習発表会 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 教育ソフト「すらら」を活用した英語力強化 ■ 外国人教師・大学講師による英会話授業 ■ 英語使用を意識した授業運営 ■ 英語スピーチコンテスト ■ オーストラリア海外体験教室（3年生） ■ 諸外国との国際交流事業

3. 教科目標

磐石の学習体制と豊富な体験学習を軸として、人間形成と豊かな学力、基礎体力の向上を培う教育を行います。生徒一人ひとりの個性や能力を引き出し、希望進路の実現にむけて科目目標を設定し授業運営を行っていきます。

科目	目標
国語	「言葉」に親しみ、「言葉」を身につけ、「言葉」によって豊かな知性や感性、人間性を育みます。また、文章で表現したり、論述したりすることに対して積極的な姿勢を養い、文章読解力を養成します。
数学	数学を学ぶ楽しさ・社会的有用性を感じることが出来る授業を展開し、数学的な見方や考え方を育てます。また、原理や法則の理解を深めるとともに、基礎的な技能を習得するためのドリル学習を充実させます。
社会	地理・歴史・公民の学習を通じて、現代社会における様々な出来事を自ら考え、分析する力・社会を構造的に理解できる力を養います。演習問題も多く取り組み、基本的な知識の定着と応用力の育成を目指します。
理科	自然に対する興味を持たせ、目的意識をもって実験・観察を行い、探求的に調べる能力と態度を育てます。また、グラフ作成やレポート作成、論述などを取り入れ、科学的な思考力や処理能力、論述力を育みます。
英語	英語学習を通して語学力を高めるとともに、自分の意見を相手に伝えたり、相手の考えを理解したりできるようなコミュニケーション能力を身につけます。また、異文化を理解し尊重する態度を養うとともに自国の文化を大切に継承する心を育みます。
音楽	幅広く音楽を演奏したり鑑賞したりすることにより、曲の構成や表現方法を感じ取る力の向上を目指します。また、音楽祭に向けた学級合唱の練習を通し、曲のイメージや各声部の役割を理解するとともに、協調の大切さを養い育てます。
美術	創り出す喜びを味わい、美術を愛好する心を育てるとともに豊かな感性や情操を養います。さらに、表現や鑑賞の幅広い活動を学校行事や生活全般に広げていくことを目指します。
保健体育	心と体には、密接な関係があることを学び、心身を磨き鍛えることによって、協力・共感・公平・公正・克己心・集中力など、何事も耐えうる心と体を育成します。また、健康の保持・増進を目指すとともに、生涯にわたってスポーツに親しむ資質を養います。
技術・家庭	技術分野では、コンピュータについて総合的な知識を身につけ、基本的な情報の処理・伝達ができるようになることを目指します。家庭分野では自立に必要な知識の習得とともに、実習を通して手作りの温かさや大切さを体感し、豊かな生活を営むことのできる実践的な力を養います。
道徳	道徳の時間や教科、特別活動などの全ての教育活動を通して、人間としてよりよく生きることの実現を目指します。生徒と共に考え探求しながら、道徳的価値に基づく人間としての生き方、豊かな心、道徳的実践力などを育てます。
総合的な学習の時間	総合的な学習の時間では、さまざまな体験学習をより一層効果的なものにするために、事前の調べ学習やレポート作成などに取組みます。さらに、1・2年では、体験・学習発表の準備を行い、3年では、校長面接のための自己分析・エントリーシート作成などの時間にも使います。机の上の学習だけでは得られない体験を通して、創造力・思考力・発表力を育みながら「未見の我」の発見に努めます。



発行 / 学校法人 九州国際大学 法人事務局
〒805-8513 北九州市八幡東区平野二丁目 5-1
TEL : 093-671-8900 / FAX : 093-671-9032